



HOUSE

学 校近郊である高田馬場には外国人も客として集まる、ひと味違う英会話カフェ ミッキーハウスがある。ここは年齢や職業問わず様々な人が集まり会話を楽しむひとつの国際交流の場となっている。「海外に興味がある。英語を話したい。しかし気軽に外国の人と話せる場所がない」そんな想いを持つ方はぜひ一度足を運んでみては。





英会話
カフェ

MICKEY

巷の国際交流 in 高田馬場



How to
“MICKEY
HOUSE”

国際交流を育む英会話カフェ 「ミッキーハウス」

高田馬場の早稲田通り沿いのビルの4階から、外国語が漏れ聞こえて来る。創業30年の英会話カフェ「ミッキーハウス」だ。他にも英会話カフェは数多くあるが、他とは大きく異なる特徴がある。ここは様々な国の人々が客として訪れ、日本人も外国人も年齢・職業・国籍問わず集まり、コーヒーや酒を片手に英語で会話ができる珍しい場所である。

4年前に以前のオーナーから店を譲り受けた内木雄太さんは、7年前からここに通っていた。最初は全く英語が話せず、週2、3回のペースで店に通い続



ミッキーハウスのオーナー内木雄太さん

け、2年程度で話せるようになったという。

「英会話教室などでは、教科書やマニュアルを使い英語のコツを教えてくれるが実践はしていない。教わったきりで使い慣らさないから、日本人は筆記の勉強はできていても、いつまで経っても話せるようにはならない。ここはあくまで日常的な会話をする場。『英語をしゃべって身体で覚える』をテーマに開催しているの、しばらく続けていけば、勉強している感覚は一切なく知らない間に英会話のスキルが身に付くようになる」

そう話す通り他にはなかなかない場所のため、下は中学生から上は87歳まで、遠方からもこぞって同店を訪れる。海外からもインターネットで調べて、寄る人も大勢いる。母が通っていたからと二世代にわたり通う人もおり、同店では本当に様々な出会いが生まれる。ミッキーハウスで出会って結婚したカップルもいるという。

そんな多くの人に愛されるカフェをより良い場所にするために内木さんは余念



内木雄太さん(手前、左)が外国人たちと店内で談笑

がない。ミッキーハウスは大きく2つの部屋に分かれており、会話テーブルと初級英語テーブルがある。内木さんが通っていた当初初級テーブルはなく、英語がわからない人は見よう見まねでひたすら会話を聞いているしかなかった。

しかし、それでは難しいという意見が多かったため3年ほど前から初級テーブルを設置し、初心者でも気兼ねなく通える空間を作った。また、もっといろいろな言語を学べる機会を提供したいと、当

初の4言語から15言語に増やし、英語は毎日だが、曜日によって様々な言語を学べる場へと発展を遂げている。さらに昨年からは毎週金曜日にはインターナショナルパーティーを開催しており、外国人も日本人も楽しめるイベントを行っている。内木さんはミッキーハウスを縛りがなく、みんなが自由に話せる場であり続けたいと語る。

「自分は裏方で、各テーブルで自分が関わらなくとも楽しんでもらえたら一番いい。英語って不思議で、本当に知らなくとも単語だけを並べて話せる。日本人は外国人に対して遠慮しているところがあるから、それをまずなくして、たくさんの方が様々な国の人と触れ合ってお互いの良さを知ってほしい」

会話ができるだけでなく、連日多くの出会いと別れがあり一期一会の溢れるミッキーハウス。英語ができるようになりたい人、海外に興味がある人など、一度この非日常空間を体験してみてもどうだろうか。

(編集部3年 石田祐衣)

Interview

ロシア人 クレソファ・ ユリアさん

ロシアのモスクワ出身。モスクワ国立大学で言語学を専攻しており、現在早稲田大学にて1年間留学中。ミッキーハウスではロシア語の講師をしている。

Q. 日本に興味をもったきっかけを教えてください

A. 高校生の時に日本語の教科書を見て、日本語って面白いなと思い興味もちました。その後、日本語をもっと学びたいと思い語学の強い高校へ転校し、今も大学で日本語を勉強しています。

Q. 今回はなぜ留学先に日本を選んだのですか

A. 私が専攻しているモスクワ大学の言語学に、日本の提携校先に1度は留学しなければいけないプログラムがあるからです。早稲田大学では、留学生は日本語メインのクラスと英語メインのクラスに分かれています。私は日本語メインのクラスに所属しています。

今までも日本には何度か来ましたが、短期旅行しかしたことがありませんでした。今回が1番長い滞在になるので、留

学できてとてもうれしく思っています。

Q. 日本の好きな場所はどこですか

A. 神社やお寺などの歴史の感じられる場所が好きです。春休みに京都へ旅行で行きましたが、非常に素晴らしい場所だと思いました。なかでも北野天満宮が、梅もきれいに咲いていて気に入りました。モスクワにもお寺は1、2カ所ほどありますが、日本のお寺のように神聖な雰囲気はあまり感じられないですね。

Q. 日本にあって、ロシアにはないものはありますか

A. 日本はサービス精神がすごいと思います。飲食店など訪れると、いつも笑顔で素晴らしい接客をしてくれます。ロシアにはそのような文化がなく、店員のその時の機嫌をそのまま接客に出されます。客として接するのではなく、同じ立

場としてみるのが普通になっていま

す。その点日本はどこへ行っても人のあたたかさを感じることができるので良いですね。

Q. ミッキーハウスはどのような経緯で知りましたが

A. インターネットで外国人向けのアルバイトを探して見つけました。奨学金はもらっていますが、せっかく留学しているので色々な経験がしてみたくて働くことにしました。どうせやるなら人と交流できる仕事にしようと思い、この仕事を選びました。

Q. ミッキーハウスにはいつ頃から勤めているのですか

A. 去年9月からここへ通うようになり、働き始めたのは12月頃でした。ロシア語は他言語と比べて人気が少ないため、週1回の火曜日だけ勤務しています。それとは別に家庭教師の仕事もしています。

Q. ミッキーハウスに来てどのようなことを学びましたか

A. 色々な国の文化に触れることができ、今まで知らなかった知識が増えました。頭の中で描いていたその国の印象や、ネットなどで調べても分からないよ

うなことまで知ることが出来ますね。こ

こには10カ国語も喋れる方がいるので、私ももっと他の外国語を勉強したい、と良い刺激を受けます。でも実際のところは英語、日本語、ロシア語の3カ国語です。特に精一杯ですね。特に日本語はもう5年間勉強していますが、未だにうまくできない発音があります。

Q. ミッキーハウスについてどう思いますか

A. 素敵な場所だと思います。初級者から語学を学べるし、雰囲気もすごく良いです。この留学中はずっとここで働きたいと思っています。モスクワには多文化交流バーがありますが、ここみたいに勉強できるような所ではないですね。是非こういったタイプのカフェをつくらせて欲しいです。

Q. 将来はどのような職業に就きたいと考えていますか

A. 通訳者を目指しています。日本からロシアだと、日本で働いてみたい気持ちの方が強いんです。そのために、現在の大学卒業後は、日本の大学院に進学したいと考えています。

(編集部3年 堀内結菜)



クレソファ・ユリアさん(22歳)

Comments No.1

イタリア人 ガブリエールさん

4年間続けている世界旅行の途中で、日本を訪れるのは今回が初めてというガブリエールさん。ミッキーハウスではイタリア語の講師をしている。日本に来てまだわずかな彼に、日本の印象やここミッキーハウスでのことを話してもらった。

Q. どのような経緯でミッキーハウスを知りましたか

A. 現在生活しているゲストハウスで、他の住人からこの話を聞いて来ました。

Q. なぜ日本を訪れようと思ったのですか

A. 日本の文化に興味をもちました。他のアジアの国と比べて日本は独特な文化をもっており、強い印象を受けました。

Q. 日本のどのようなところが好きですか。

A. まだ東京しか訪れたことがありませんが、ここ高田馬場のようにカラフルな街灯がきれいだと思います。人のあたたかさも感じられて素晴らしい国だと思います。来月には京都や大阪、富士山な



ガブリエールさん (31歳)

ど多くの観光地を訪れる予定です。それでも日本の新たな魅力を見つけられると思うので、楽しみにしています。

Q. ミッキーハウスに来て学んだことはありますか

A. 私は本来教える立場ですが、日本人の生徒の方が多いため、日本の文化や語学を学んでいます。漢字やよく使う日本の単語など、新しく覚えたことがあればメモに取るようにしています。

Q. ミッキーハウスについてどう思っていますか

A. とても変わった面白いアイデアのお店だと思います。様々な国の人と出会うこともできるつえに勉強をすることもできますからね。母国のイタリアにはこういった所がないので、すごく良いと思いました。

Q. 世界旅行でのことを教えてください。

A. これまで45カ国を旅行してきました。そのなかでも印象深かった国はメキシコ、タイ、オーストラリアですね。特にメキシコは食べ物がおいしく、きれいな海があり、人も美しい国でした。1人1人の個性が非常に強いため、独特な文化をもっている魅力的に感じました。

Q. 今後はどうしていく予定ですか

A. もちろん、これからも様々な国を訪れるつもりです。多くの人や場所との出会いを通し、幸せで居続けられることを夢見ています。

Comments No.2

アメリカ人 ネイトさん

高校の英語教師。

Q. 日本を訪れたきっかけ

A. アジアの国に行きたくてどこに行こうか迷った。日本語は一見簡単なようで難しい。でも中国語は漢字しかなくさらに難しさを感じた。また、日本はとてもいいところだという印象も持っていたた



ネイトさん

め、日本で英語を教えたいと思い来た。

Q. ミッキーハウスをどう思うか

A. 他にここに代わる場所はないと思う。とてもめずらしいところ。東京自体もとてもめずらしいと思う。

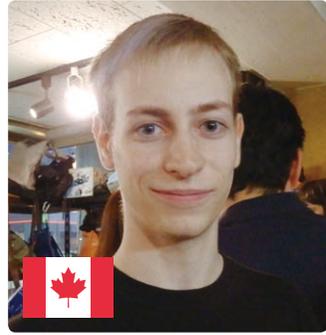
Comments No.3

カナダ人 バジールさん

カナダのモンクトリオール出身。大学3年生の留学生で、3週間前に日本にやってきて、1年間いる予定。

Q. 日本を選んだ理由

A. 日本はテクノロジ、例えばパソコンの中のパーツ、マイクロテクノロジなどの先進国だと思ったから日本を選ん



バジールさん

だ。将来はエンジニアになりたい。

Comments No.4

カナダ人
ノイさん

カナダのトロント出身。旅行で来日しておりこの日東京2日目の滞在。ミッキーハウスは初めての来店。

Q.どのような経緯でミッキーハウスを知りましたか

A. 以前2ヶ月間旅行をして、ミャンマーに行ったことがありました。その時出会い仲良くなった同じカナダ人の友人がここを紹介してくれました。彼女は以前ここで1ヶ月働いていたことがあり、様々な国の人と出会うことのできる良い場所だと教えてくれました。東京に行く

Comments No.5

スペイン人
ミミさん
オーストラリア人
アリスさん

機会があったら是非行ってみたいと思っていました。

今回は旅行でミッキーハウスを訪れた2人。ミッキーハウスはインターネットをきっかけに知ったという。

アリスさんは大学で東南アジアについて勉強しており、なかでも日本に興味をもちよく訪れるのだという。

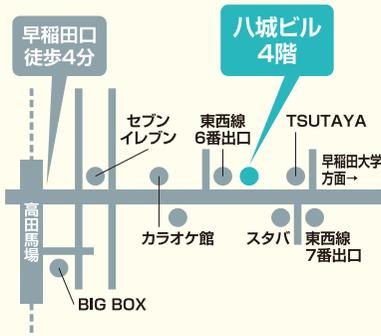
2人共日本のことが大好きで「また日本に来た際は是非ミッキーハウスに訪れたい」と話していた。



左: アリスさん(22歳・大学生)
右: ミミさん(23歳・フライトアテンダント)

英会話喫茶ミッキーハウス

- **アクセス:** JR 山手線・西武新宿線 高田馬場駅 早稲田口より徒歩4分
東京メトロ東西線 高田馬場駅 6番出口より徒歩10秒
- **住所:** 東京都新宿区高田馬場2-14-4 八城ビル4階
- **電話:** 03-3209-9686
- **営業時間:** 月～土: 18:00～23:00 ※金曜は国際交流パーティー!
土～日: 13:00～18:00
※英語以外の言語は開始時間が異なる場合がございます。
- **ホームページ:** <http://mickeyhouse.jp>



● 会話テーブルのスケジュール

※ 9月中旬より、ポランド語テーブル開設予定です!

- 月: 英語・ポルトガル語・スウェーデン語
- 火: 英語・スペイン語・イタリア語・ロシア語
- 水: 英語・フランス語・中国語・ヒンディー語
- 木: 英語・ドイツ語・ロシア語・(9月中旬～) ポーランド語
- 金: 英語パーティー・フランス語・ドイツ語
- 土: 英語・スペイン語・イタリア語・タイ語・インドネシア語
- 土 (14時～18時): 英語・中国語
- 日 (14時～18時): 英語・韓国語・ベトナム語

(ミッキーハウスHPより)

Interview

スイス人 フローリヒ・ マルティナーさん

スイスのツーク州産まれ。高校の時に大阪に留学し、現在はミッキーハウスでアルバイトをしている。

Q. なぜ日本に足を運ぼうと思ったのですか

A. 中学生の時に漢字に興味を持ったからです。外国人は刺青をする時、彫る文字に漢字を選ぶことが多いのですが、彫られている漢字の意味が分かったら面白いと感じ、また、文化にも興味があったため日本にやってきました。

Q. 日本の一番好きなポイントは何か

A. 四季を感じる事ができるところがとても面白いです。冬はスポーツもでき、夏はトロピカルな気分になれます。また、どんな状況でもお互いに優しく、敬語を使う事ができて互いに尊敬する文化や、おもてなしの文化がとても素敵だと感じます。

Q. 日本とスイスの文化の違いは何ですか

A. 二国には非常に似ているところがあります。例えば時間やルールを守るところやおもてなしが大事であるところですが、スイスは4カ国語から成り立っていて様々な国の文化が混ざっているため、たまにそれが問題になることがあります。互いの文化がぶつかっても互いに理解ができずに困る、ということが日本より多いので、そのような点が異なる点だと思います。

Q. スイス人は日本のことを一般的にどう考えていますか

A. 日常で着物を着ていたり、お茶を飲んでいたり、昔の文化が守られているイメージです。お茶を飲むという行為について、スイスではお茶をコンビニで買うことはできませんが、日本では当たり前のようにペットボトルに入ったお茶が売られています。また、二十年前から日本のアニメがヨーロッパでも流行り出しているから日本に興味を持つ人が出てくるかもしれません。

Q. スイスの大学はどのような感じですか

A. 日本と変わりませんが、高校には部活がなく、大学にもサークルがほとんどないためその点がスイスの寂しいところかもしれません。どちらかという日本

の大学の方が楽しいように思います。アルバイトに関しては、成績が良ければあまり何も言われませんが、スイスの高校生にはアルバイトをする文化がなく、その点は日本と多少異なります。

Q. これから日本で何を学びたいと考えていますか

A. もっと日本の文化について学びたいです。日本の美術はとても素敵だと思いますし、デザインや建造物もとても面白いと思います。また、私は将来メディア関係の仕事や、いろいろなお仕事に関係があるので、お話しをして人と繋がることのできる仕事がしたいです。人々にニーズを伝えたり、新しいアイデアを伝えたり、真新しい情報を提供したいと考えています。

Q. ミッキーハウスで働いてみてどうですか

A. 会話を教えたりしていますが、生徒と先生の関係というより、お互いが生徒であり先生という存在なので、とても勉強になります。英語を話すことはできませんが、母国語ではないので、もっとたくさん勉強しなくてはならないと感じています。様々な国の方、仕事をしている方と話し関わることで、新しい単語や考え方を覚えることができる非常に楽しい

場所です。



フローリヒ・マルティナーさん(20歳)

Q. 外国人から見て日本の魅力に感じる点はありますか

A. 昔と未来が繋がっているという印象が強く、古くからの文化を守りつつも、考え方は固執せずに未来的にも考えることができます。そのような能力が凄いと感じますし、これは日本にしかない能力だと思っています。例えば、都内に明治神宮のような昔からの文化と、現代の文化を象徴する秋葉原があるというように、真逆な発想の物がすぐ近くに存在している、そのようなギャップが非常に興味深く、日本の魅力であると思うのです。

(編集部3年 海野由江)

勉強する機会は神様からのプレゼント

勉強を通して感じる日本語の楽しさとは



陸宏子さん(47歳)。目白大学外国語学部中国語学科2年生。中国吉林省長春出身。

現在目白大学外国語学部中国語学科に通う陸宏子さんは普段は家庭を支える主婦だ。彼女にはあるひとつの夢があるという。「中国出身である私が一番良くできるのは母国語でもある中国語です。この自分が一番できる中国語を日本人に教えることができればいいなと思うっていました。今はそのために大学で勉強しています」

た。当時は仕事や結婚、子育てなど色々あり、「勉強をする」という機会が無かったという。現在では子供も大学生になり、子育てが一段落ついた。そこで仕事を辞め、夢のためにもう一度中国語を勉強するという目的で目白大学に入学したという。父親が中国人、母親が日本人である陸さんに初めて日本を訪れた時の印象について質問したところ、「日本に初めて来たのは島根県に住む母方の祖父のもとを訪ねた1990年頃だったと思います。その時に抱いた印象は『日本人はとても優しい』というものでした」という。初めて来日した際、陸さんは日本語を話すことができなかった。「言語の違い」という見えない壁がある陸さんに對し、周りの人々は一生懸命に書

いて説明してくれたり、たくさん話しかけてくれたりしたという。また島根で同じ年頃の友人ができた陸さんは、その友人に日本語を教えてもらうこともあった。インタビュー中、質問に対して流暢な日本語で答えていた陸さんに、今まで日本語を学んできて難しいと感じるところと、楽しいと感じるところは何であろうかを聞いた。「てにをは」が難しいです。中国語にもありますが、中国語と比べて日本語のものは分かりづらく感じます。この場面だと『が』を使うべきなのか『は』を使うべきなのかいつも迷います」

陸さんは他に敬語も難しいと感じている。謙譲語や丁寧語といった種類があり区別がしづらく、陸さんは基本を暗記し、「この場面だとこれだ!」と考えて敬語を使用している。日本語を学んで楽しいと感じるのは、勉強して相手の話している内容を聞き取れた時だという。他にも落語のように、日常会話で使う日本語とは違う日本語があるということも学ぶ楽しさのひとつである。

陸さんは親子の間に「大学」という共通の話題ができ、互いにいい刺激を受けているという。また一緒にテスト勉強をしたり、検定を受けたりと、他の学生が友人と行うようなことを親子で行うというのも楽しみのひとつだと語った。そんな親子間の会話を大切にしつつも夢のために努力する陸さんに、最後に今後の学生生活の抱負について尋ねた。「私は学生であり、母であり、主婦でもあります。他の学生と比べて抱えているものが多いかもしれませんが。そのため勉強以外のことを優先しなくてはいけない時もあります。しかし、今の私にとって勉強は生活の一部となっています。社会人になってから勉強するのは時間的にも体力的にもとても大変です。私が今こうして勉強する機会があるのは神様からのプレゼントだと思っています。残りの学生生活も同じ学科の学生たちと一緒に勉強しつつ精一杯楽しみたいと思っています」

(編集部3年 柳原千穂)